リーグ戦プレビュー、大臣杯レポート

激戦必至！！首位攻防戦の大一番

ホームで勝ち取る今季初の首位

　総理大臣杯予選を５位で突破した駒大。しかし、休む間もなく前期リーグ最大の山場を迎える。相手はリーグ戦単独首位の東洋大。予選を早々に敗退した東洋はこの試合に向け、駒大よりも入念な準備をしてくることが予想される。

　だが、そんな心配も杞憂となるだろう。「自分達のサッカーをやれば、１部相手にも十分やれる」と湯澤が話せば、「中大と試合したことで昇格への思いは強くなった？」という質問に、若山は「はい」と力強く答えた。結果だけ見れば、５位とパッとしないかもしれないが、予選を通じて強くなった自信と野望は想像以上に選手達の原動力となるはずだ。

　試合のポイントは回してくる相手に対し、どれだけいつも通りプレスを掛けられるか。ただ、それも「最近は回すチームとやることが多いので」（若山）と全く意に介さない様子だった。

　また、この試合は天皇杯の出場権もかかっている。今年はインカレに出場できない分、自分達が勝たなければ、公式戦の数は増えていかない。

　とはいえ、まずはリーグ戦が第一優先であることは間違いない。激しい試合が予想される駒大ＶＳ東洋大。昇格への思いが強い方が勝利を手にする。

予選5位で大阪へ！

怒涛の1週間も遂に終わりを迎え、結果は4勝1敗の5位。チーム全員で本選出場を決めた。

夢の続きは大阪で

　「１週間、長かったですね」ー。予選を振り返り、若山は素直にそう答えた。約１週間で５試合もこなしたのだから無理もないだろう。しかし、インタビューに答える若山の表情には決して疲労感はなかった。むしろ、隣で行われていた決勝戦（早稲田ＶＳ筑波）を見ながら、本選を楽しみにしているようだった。

　早稲田の同点ゴールが決まったのを見ると、「やっぱり西が丘でやりたかった」と、中大戦での敗戦を悔しがった。ただ、もうチャンスが無いわけではない。同じ場所ではないかもしれないが、大きな舞台でプレーするチャンスはある。「大阪（長居）で出来たら」。夢は本選で叶えてみせる。

（紙面編集:猪熊脩登）